

# 井辺遺跡第 58 次発掘調査現地説明会資料 2017 年 8 月 5 日(土)

和歌山市教育委員会  
(公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団

所在地：和歌山市井辺

調査期間：平成 29 年 6 月 5 日～現在継続中

調査原因：市営岡崎団地の建て替え

調査面積：約 840 m<sup>2</sup>

## 1 井辺遺跡の概要

井辺遺跡は福飯ヶ峯の南西、標高 3.0m の沖積低地に位置しています。遺跡の発見は昭和 39 年、市営岡崎団地造成工事の際におこなわれた灌漑用水路掘削土の中から、大野嶺夫氏が弥生時代後期から古墳時代初頭の土器を多数採取したことを契機に、和歌山市教育委員会と関西大学考古学研究室により第 1 次調査がおこなわれ、土器列（溝か？）や井戸がみつかりました。遺跡範囲は東西 1.2 km、南北 0.5 km で、県の調査を含め 60 次余りの調査が実施されてきました。これまでの調査では弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構・遺物が多くみつかり、複数の集落、前方後方形墳丘墓を含む墓域、水田や畑などの土地利用や当時の地形が明らかになっています。

## 2 調査成果

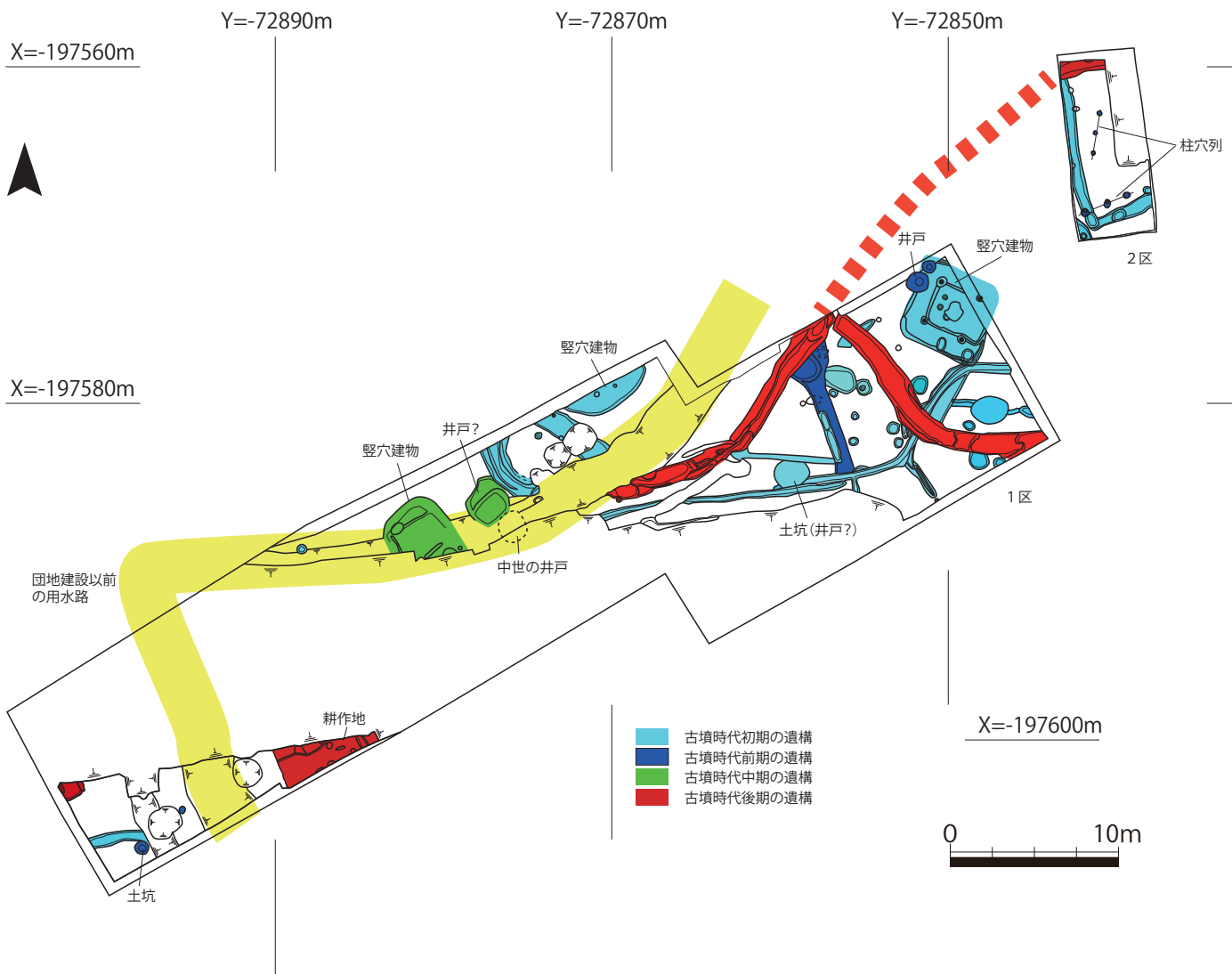
今回の調査地は第 1 次調査の南側にあたり、みつかった主な遺構には古墳時代初頭の竪穴建物 2 棟、土器が多数出土した井戸の可能性のある土坑、溝 3 条、古墳時代前期の井戸、土師器鉢と台石が出土した土坑、古墳時代中期の竪穴建物と井戸の可能性のある土坑、古墳時代後期の溝 2 条と耕作地があります。

古墳時代初頭の竪穴建物は円形と方形があります。遺存状態の良い方形の竪穴建物は中央に炉があり、その周りが方形に凹んでいます。その周囲には中央より一段高くなるベッド状施設を西、北、東の三方に備えています。南側はベッド状施設がなく、入り口と考えられています。西と南の壁際中央では土坑をそれぞれ 1 基ずつみつけました。西壁際の土坑は壁溝より後に掘削されており、貯蔵穴と考えられます。南壁際の土坑はベッド状施設を有する竪穴建物ではこの位置に土坑が掘削されているものが多く、胞衣を埋納した土坑ともいわれています。このような遺構配置の竪穴建物は、古墳時代初頭から前期に紀ノ川北岸でよくみられますが、井辺遺跡では多くはありません。

方形の竪穴建物出土遺物にはベッド状施設直上で出土した土師器甕や鉢、中央炉から出土した波状の文様を施した壺や碧玉製の小さな管玉があり、炉出土遺物は祭祀遺物の可能性があります。

今回の調査地は弥生時代後期後半から古墳時代前期には井辺遺跡の中央に存在した集落の一部であり、その様相がわかってきました。この集落は古墳時代後期には耕作地に変わります。集落が耕作地になる変化は井辺遺跡の他の地点でも確認されており、この時期に大規模な水田開発がおこなわれた可能性があります。また、これまで井辺遺跡では古墳時代中期の遺構があまりみつかっておらず、この時期の土地利用は不明でしたが、今回の成果で調査地周辺に古墳時代中期の集落が存在している可能性が出てきました。

これらの遺構の他、弥生時代の水田の可能性のある堆積を確認しており、今後調査を進めていく予定です。



2区全景（南から）



多くの土器が出土した土坑（井戸？）



1区西端全景（東から）



土師器鉢と台石が出土した土坑（南から）



1区中央から東側全景（東から）



古墳時代初頭の竪穴建物（南西から）



竪穴建物出土土器 1



竪穴建物中央でみつけた炉（南東から）



竪穴建物出土土器 2・3



炉でみつけた土器と管玉（南東から）



古墳時代前期の井戸（東から）

